

上院歳出委員会小委、USPTO の滞貨問題に触れる

2008 年 3 月 13 日

JETRO NY 澤井

上院歳出委員会商務省・司法省等小委員会(委員長 Mikulski 議員(民、メリーランド))の 6 日付け議事録によれば、同小委において、Mikulski 委員長より、USPTO における滞貨問題や審査官の早期離職問題が提起され、Guterrez 商務長官がこれに回答した。

商務省(DOC)の 08 年度予算について審議される中、委員会の終盤に、Mikulski 委員長は、これまで USPTO に対し多額な予算を計上してきたが、100 万件にも及ぶ滞貨は依然改善されていないと発言。

これに対し、Guterrez 商務長官は、現在対策の途上であるとしつつ、出願増や出願内容の複雑化を背景に、毎年 1200 名の審査官を採用するも、増員のみでは不十分と回答。審査着手までに 25 月を要しているところ、他の対策として、出願人自らが、質の見直しや情報収集を行うことにより、この期間が 18 月になるとの見通しを示した。加えて、在宅勤務を含め、職員自らが柔軟に時間管理や業務管理を行うことの重要性を説いた。更に、他国特許庁との審査協力についても触れている。

Mikulski 委員長は、知的因子でもある庁採用者を如何に庁に留めるかにも着目すべきと指摘。更に、ナショナルアカデミー報告「Rising Above The Gathering Storm」(05 年)¹を引用し、技術革新に向けた USPTO の役割に触れつつ、100 万件にも及ぶ滞貨は改善しなければならないと強調した。なお、同ナショナルアカデミー報告書は、米国の繁栄を維持すべく知識ベースのリソースの最適化を促しており、同報告の中で、知的財産保護の重要性と特許制度の近代化の必要性、USPTO のリソースの強化を求めている。

(了)

¹ http://www.nap.edu/catalog.php?record_id=11463